

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価 (3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの能力やニーズを踏まえながら、生徒の「生きる力」を育む教育課程の編成に取り組む。</li> <li>基礎学力の確実な定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を組織的に推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「主体的に学習に取り組む態度の向上および定着」に向けて、授業改善を目的とした計画的・組織的な取組を充実させる。</li> <li>授業で習得した知識・技術を活用する「課題解決型」の授業を各教科で導入・展開できるよう組織的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習能力差が顕著になりつつある現状に対処するため、個別最適な学びの実現に向け、組織的な取組を図る。</li> <li>「課題解決型」の授業を浸透させるため、各教科の取組(授業案や教材)を共有して、組織的に授業改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科での取組事例を授業研究会等で共有し、実際の授業で役立てることができたか。</li> <li>生徒が記入する授業の振り返りシート、定期試験の結果、生徒による授業評価アンケートの回答結果等から授業改善の取組が反映されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究会を開催し、「課題解決型」の授業の導入方法やICTの活用方法について理解を深めることができた。特に電子黒板の活用が定着したこともあり、生徒による授業評価もほとんどの項目について、「とてもよく当てはまる」、「やや当てはまる」の回答割合が昨年度を上回り、80%以上となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTのさらなる活用、特に生成AIを活用して、教材や試験を効率よく作成できるよう具体的な実践例を集積し、その情報共有を図る必要がある。</li> <li>生徒の自律的な学習を促す目的で、ICTと生成AIを利用した具体的な学習方法を定時制全体で組織的に提示していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生成AI等のICTと黒板を利用した通常の授業のハイブリッドで両者のよいところを活かして授業を行っている。</li> <li>生徒は、スマホの使用頻度が高いのも問題になっているので注意していく必要がある。</li> <li>学ぶことに不安のあった生徒もいたと思うが、生徒の授業評価の高度はとて素晴らしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もICT機器を活用した授業を積極的に導入して生徒の学習意欲を高めていきたい。また、その実践例を共有することで、各教員の「授業力」を向上させていく必要がある。</li> <li>スマホへの依存度の高さが問題となっている。LHRや集会等でスマホの適切な使い方を紹介していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も授業研究会や授業見学を行い、各教科での実践例を共有し、授業改善に努めていく。また他校定時制での実践例も参考にしていく。生徒による授業評価については数値だけでなく、授業に対する感想や意見を得られるよう従来の書式を見直していきたい。</li> </ul>
2	生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の確立と、社会的規範意識の醸成を図り、社会性を養う。</li> <li>自己肯定感、自己有用感を高める。</li> <li>個性や多様性を尊重し合える豊かな心を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身が主体的に規範意識を高める活動の導入や、社会性を育む機会の充実を図る。</li> <li>個々の生徒が抱えている困りの解消に向けた組織的支援相談体制の強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会見学など校外学習を通して生徒自らが考え行動できる機会を設定し、生徒の規範意識の醸成を図る。</li> <li>巡回や声掛けを通して生徒が安心できる学習環境をつくと共に、個々の生徒の困りの解消に向けた相談体制の一層の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が校外行事等へ参加できるよう、企画内容を工夫し、参加率90%を超えることができたか。</li> <li>巡回や声掛けに加え、SC,SSW,外部機関とのさらなる連携強化を通して、すべての生徒の困りを解消することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外施設を利用した行事を多く実施することができた。参加した生徒たちも視野を広げることができたが、参加率は75%ほどに留まった。</li> <li>生徒が自らの困りを養護教諭や担任に訴え、解消に努める姿勢が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加した生徒たちにとって実のある行事であったことが事後アンケートからも伺えるが、参加率を上げられるよう工夫を加える必要がある。</li> <li>生徒一人ひとりの困り解消に向け、SC,SSW,外部機関とのさらなる連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数で丁寧に対応してもらっている。</li> <li>行事について生徒は様々な事情があると思うので出席率など数字にとられなくていい。</li> <li>様々な生徒がいるので無理のないように行事を行ってほしい。</li> <li>行事の数は減らさないであげてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習等の行事への参加率が高く生徒の意欲向上が見られたが、一部の行事では75%に留まり改善の余地がある。</li> <li>SCやSSWとの連携により生徒が自ら困りごとを相談できる体制は整いつつあるが、個々の状況に応じた柔軟な対応が引き続き求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の参加率向上のため企画内容を工夫し、全ての生徒が安心できる学習環境を維持する。</li> <li>次年度も養護教諭や外部相談機関との連携をさらに強化し、生徒一人ひとりの「困り」の早期発見と解消に努めることで、自己肯定感と規範意識のさらなる醸成を図っていく。</li> </ul>
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動を通じて、生徒の基礎的・汎用的能力を段階的に育成し、生徒一人ひとりが自己の生き方、あり方を考え、主体的に希望の進路を実現できるよう支援体制を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの進路や自己実現に向けて、主体的に取り組むことのできる態度を育成する。</li> <li>進路実現に向けた情報と学習機会の提供を組織的に行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒がオープンキャンパスやインターンシップに参加できるよう、情報提供など環境を整備する。</li> <li>キャリアガイダンスなどの機会を通して、卒業生や地域資源を有効活用し、個々の進路希望の実現に向けて支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキャンパスやインターンシップに参加した生徒が昨年の実績を上回ることができたか。</li> <li>進学、就職共に幅広い分野の外部資源を有効活用することができたか。</li> <li>卒業予定者全員が希望する進路を実現することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップに8名(13事業所)が参加し、職業観の醸成に役立った。</li> <li>キャリアガイダンスを行い、進路目標を明確にすることの大切さを学ぶ機会となった。</li> <li>卒業予定者全員が第一希望の進路先を決定した(就職4名,専門学校2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望者に対する進路指導が十分でなかった。外部資源を有効活用するなど、工夫していきたい。</li> <li>次年度卒業予定者13名一人ひとりの進路実現に向けて個別指導の一層の充実を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ参加事業所が多数あったが、場所によってあまり受入れ態勢が整っていない事業所もあった。</li> <li>生徒が希望の進路に決定したことが素晴らしい。今後も生徒が主体的にキャリア形成に取り組めるよう、個別指導の一層の充実を図るとともに、地域資源を活用した学習機会を組織的に提供し、希望進路の実現に向けた支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業予定者全員が第一希望の進路を決定したことは大きな成果である。一方でインターンシップ受入先の態勢の差や、進学希望者への指導不足が課題として挙げられた。今後は外部資源をより組織的に活用し、多様な進路ニーズにきめ細かく応えるための支援体制を再構築する必要がある。</li> </ul>	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が持続可能な社会の担い手として活躍できるよう、学校を中心に家庭と地域が一体となって協働できる具体的な方策を検討・導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携を深化させ、生徒の人間関係形成能力の向上を図り、社会参画の意欲と態度を育成する。</li> <li>地域資源を有効に活用し、生徒の防災・安全に対する意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校外で社会に触れる場(校外学習や登下校中、アルバイト経験など)を通して、社会と関わることへの意識向上を図る。</li> <li>市役所、警察、保健所などと連携し高校生をとりまく今日的課題に対する講演会を開催し、生徒の安全意識向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が社会の一員であることを自覚し、学校外での活動に積極的に参加し、地域との関わりを深めることができたか。</li> <li>交通安全教室や薬物乱用防止講演会など、地域資源を有効に活用し、生徒の安全意識の向上に繋げることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルバイト経験を通して、社会の一員として多くのことを学び、成長の様子が見られた。</li> <li>外部資源を活用し、高校生を狙う今日的課題の防止に向けた講演会を行うことができた。生徒たちも自分事として捉え、学びを深めていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献活動以外では、地域とのかかわりを深める場を設けることはできなかった。</li> <li>学校外の方々のお話を伺う場面を多く設定し、地域との関わり、社会の一員としての自覚をある行動がとれる生徒を育成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災に対して、地域とのかかわり方を考えてほしい。</li> <li>定時制の生徒が、教育活動の中で地域と協働ある機会を得ることは難しいと思うが、アルバイトや生活の中で生かせる考え方や、取り組みを計画的に行えるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関と連携した安全教室により、今日的課題への意識向上が図れた。また、アルバイトを通じた社会参画の意識も芽生えている。</li> <li>学校主導の地域貢献活動の場を十分に確保できなかったことが課題であり、防災面も含めた地域社会とのより深い関わり方を模索する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部の方の話を聴く機会を増やし、社会の一員としての自覚を高める教育活動を推進する。</li> <li>地域と協働した防災活動等の具体的な方策を検討するとともに、生徒の日常的な社会経験をキャリア教育に結びつける工夫を凝らし、地域資源をより計画的かつ有効に活用していく。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に安心安全で快適に学べる学習環境を維持する。</li> <li>職員が一人ひとりの生徒に向き合える環境を整え、働き方改革をより促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時制の閉課程を見据えて学校行事の精選を図る。</li> <li>各分掌で担当する個々の業務内容を新着任者でも滞りなく対応できるようマニュアルを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌で閉課程に向けた行程を策定し、職員数減少を見据えた業務の精選、簡素化を行う。</li> <li>各分掌が担当する業務について、引継ぎマニュアルを整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌で担当する業務の精選、簡素化を実施することができたか検証する。</li> <li>少数の職員でも滞りなく教育活動が実施できるよう引継ぎマニュアルを整備できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員と生徒数の減少を見込んで、令和10年度までのおおまかなスケジュールを策定することができた。</li> <li>充実した教育活動の維持を図りつつ、学校行事の精選と分掌業務の簡素化をすすめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度はさらに教職員が減少し、企画会議と職員会議の構成メンバーがほぼ同じとなるため、会議を一本化できないか検討したい。</li> <li>教育課程はこれまでと同様に展開し、充実した生徒の学びを保証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>募集停止の影響を受けて教職員数の減少が続いていることから、これまでと同様の教育活動を展開するには困難が生じると思われるが、学びの保証を軸にしてメリハリの改善をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループ業務の引継ぎマニュアルが整備されてきた。今後も教職員数が減少する中でこれまでと同様の充実した教育活動を維持するために職員間の連携と効率の良い学校運営が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も教職員数が減少することから、令和9年度以降はすべてのグループを統合する方向で検討していく必要がある。</li> </ul>